

国際ロータリー2560 地区目標

ロータリーで
人生をより充実させよう

高田ロータリークラブ会長方針

一所一期一会

持続可能な
インパクトを
生み出そう



国際ロータリー会長 オラインカ・ハキーム・ババロウ

第 2560 地区ガバナー 富山 洋

高田ロータリークラブ会長 吉原耕一

幹事 鈴木陽一

広報・会報・雑誌委員会：

阿曾 晋 丸田健一 釜田英一 梅津真揮夫

第 8 回例会 9 月 4 日(金)

No.8

会長挨拶

● 吉原 耕一



皆様、こんにちは。
鈴木幹事さんが体調不良のため、本日は細野さんにピンチヒッターをお願いしています。

ロータリーでは各月ごとに目標となるテーマを決めて特別月間というものがあります。普段はほとんど話題にものぼりませんし、なかなか意識もしませんが、クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加することを意識するように、国際ロータリーや日本ロータリーがテーマを指定した月間のことです。

9 月は「基本的教育と識字率向上月間」です。有難いことに、現在の日本では基本的教育も保証されていますし、その結果識字率もほぼ 100% 近くです。100%でないのは、2020 年国勢調査によると、最終学歴が小学校の方は約 80 万 4,000 人、小学校卒業未満の「未就学」の方が約 9 万 4,000 人と発表されていて、一定数の読み書きができない方もいると推定されるからです。

世界に目を向けると、2023 年時点の 15 歳以上の成人識字率は約 87% で、内訳は、男性が 89% 前後、女性が 84% 前後とされています。戦争・紛争・貧困・食

料や水不足などの問題が根底にあります。

今の日本に住む私たちは、読み書きもできる、教育も受けられる、蛇口をひねれば水が出て、スイッチを押せば電気も点く。なんと有難いことでしょうか。先人の方に感謝しかありません。次の世代に私たちと同じような環境を引き継いでいくのは、今を生きる私たちの責務です。ロータリアンとしては、まず自分の職業を通して、その責務を果たしてまいりましょう。

さて、本日の卓話は上越市立歴史博物館館長の花岡様による「高田の成り立ちその 2」です。

ロータリークラブの卓話は 25~30 分という時間の制約があります。授業時間で言えば、小学校で 45 分、中学高校で 50 分、大学や講演会の時間枠は 90 分というものが多くあります。90 分というのは、やはりある程度まとまったお話をお伺いするのに必要な時間なのかもしれません。そのように考えまして、特に吉原がこだわった「高田の成り立ち」と「近代の高田」のテーマにつきましては、お一人の講師の方に 3 回の卓話をお願いするという形にさせていただきました。

本日も大変楽しみにいたしております。花岡様どうぞよろしくお願いいたします。



出席報告

95.92%

メイクアップ

8/24(月)東京中央新 R C 例会：高坂光一君
8/29(土)諮問委員会：大谷光夫君
8/29(土)森田年度団結式：大谷光夫君・中田 正君・高坂光一君・原野聖子君

セレモニー

ポールハリスフェロー表彰：中田 正君・林 泰成君

委員会報告

親睦委員会：9 月度会員の誕生日 各お祝い

国際奉仕委員会：2027 年度国際大会登録のお知らせ
職業奉仕委員会：11 月 20 日健康診断と移動例会

(岩の原葡萄園)について

2013-14 年度社会奉仕委員会：大人の発達障害事業会計について

会員インフォメーション

小師智彦君：NST のゴルフ番組”ぐるビバ”で松ヶ峯カントリー倶楽部が登場！

高岡成介君：10 月 3 日 IWANO HARA WINE FES 2026 のお知らせ

幹事報告

配布物：週報 No.7、2026-27 年度現況報告書、ロータリーの友 9 月号

回覧物：ガバナー月信 9 月号

卓話：越後の都と徳川の城②

上越市立歴史博物館 館長 花岡公貴様



高田城は、越後一国を治める越後国府の地位を継ぐ「越後の都」とであると同時に徳川-豊臣の最終決戦の最後の布石として築城され、佐渡-江戸の金銀輸送の中継地点であり、また日本海側のかなめに打ち込まれたくさびの役割を果たす徳川の城であった。

大阪夏の陣ののち、忠輝の不首尾を巡って伊達政宗とのいさかいに発展した。政宗の言い分を聞いた家康は、実子である忠輝を処分することとした。

忠輝の越後太守在任はわずか 6 年ほどとなったが、日本海側のかなめとしての重要な役割を持つ高田城が残された。高田城には、四天王の一角で家康のいここにあたる酒井家次、家康の孫にあたる松平忠昌が入ったが、寛文元(1624)家康のひ孫となる越前北庄の松平光長が、叔父松平忠昌と入れ替わりで越後半国を領した。結城秀康系松平家の嫡流であり、父・母ともに家康の孫という血筋の良さと、母勝子が将軍秀忠の子であることから、幕府から重く扱われ、その高田藩領の統治は 57 年間に及んだ。

藩主の地位と、初めて長期統治が行われたその治世によって、高田藩領と高田城下の繁栄がもたらされた。上江・中江両用水の開発、大瀧の開拓をはじめ大小の開発によって、膨大な新田が生まれた。現在の上越の景観が生まれたのはこの

時代である。

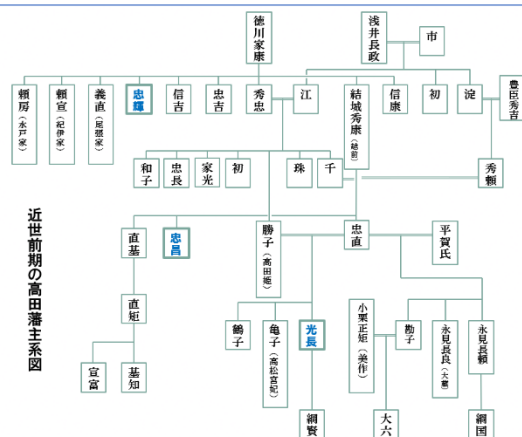
寛文地震(寛文 5 年<1665 年>)からの復興に伴い、城や城下町の改造が行われ、城下町の繁栄は光長の面目躍如といえる。

しかし、母勝子の死去、光長の嫡男綱賢の死去が続き、後継者を巡るお家騒動が勃発する。当時、高田藩政を担っていた家老小栗美作と、それに反発した永見大蔵・荻田主馬一派が家中を二つに分断して争ったのである。一旦は終息に向かった騒動は、5 代将軍綱吉によって再審が行われ、小栗親子の切腹と藩小栗派の遠島、そして藩主光長の改易という結末を迎えてしまう。

高田歴代藩主家

大名	石高	大名	在封年数	大名
堀家	450,000	慶長2(1598)	12	外様
1 松平忠輝	* 600,000	慶長15(1610)	6	親藩
2 酒井家次	100,000	元和2(1616)	2	譜代
3 松平忠昌	250,000	元和5(1619)	5	親藩
4 松平光長	263,000	寛永元(1624)	57	親藩
5 稲葉正通	103,000	貞享2(1685)	16	譜代
6 戸田忠真	67,850	元禄14(1701)	9	譜代
7 松平(久松)	110,000	宝永7(1710)	31	譜代
8 榊原家	150,000	寛保元(1741)	130	譜代

* 45万~75万まで諸説あり



高田の繁栄

- 家格が高く、領地も広く、侍の数も多い松平光長家が入封したことで城下町が活気づいた。
- 57年もの期間、安定した政治が行われた。
- 城下町の振興のため、高田町人町の地子が免除された。
- 高田城下町の商工業が保護された。
- 領内の新田開発や河川工事が積極的に行われ、石高が増えた。

小栗美作の台頭

- 地震からの復興
- 保倉川を関川へ流して、水量を増やし、港の機能を強化。
- 中江用水などの開削。
- 大瀧中谷内新田・保倉谷などの新田開発。
- これらによって、表高26万3000石のところ、実高は36万石余りとなっていた。新田開発については、寛文地震以前から進められていた事業でもある。
- 大鹿たばこの特産化。
- 八海山銀山の開発。
- しかし、美作自身がこれらの事業を直接行ったことが分かる一次史料はない。研究の余地がある。



ポールハリスフェロー表彰
林 泰成君



会員お誕生日各お祝い
＜お誕生日＞ 武藤仁志君・釜田英一君
＜結婚記念日＞ 齋藤尚明君・鈴木陽一君・中田 正君



本日のお食事
鰯かけチャーハン